

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

私たちは地域・職域・学校など、  
生活のいろいろな場面で  
「健康寿命」をのばす運動を  
実践しています。

# よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(平成8年5月20日第三種郵便物認可)

2005(平成17)年11月15日 第392号

(財)東京都予防医学協会  
(財)予防医学事業中央会東京都支部  
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402  
東京都新宿区市谷砂土原町1の2  
保健会館 電話03(3269)1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

## ● 今月の主な紙面 ●

- 1面 乳がん検診学術講演会を開催・本会
- 2-3面(見開き)
  - 話題 糖尿病診療におけるITの活用
  - 新連載「森林へ行こう」第1回
  - 連載「おことばですが...保健指導反省記」第7回
  - 健康づくり・健康増進を支援するページ 対策編 第7回
- 4面 第1回日本医学会公開フォーラム「医学・医療の今 がんに挑む」  
第50回予防医学事業推進全国大会が福岡市で開催  
『子どもの生活習慣病と健康づくり』を頒布・中央会  
お知らせ  
人・往来

表 東京都予防医学協会の乳がん検診成績 2004年度  
(2005年8月現在)

検診項目	受診者数	要精検者	精検結果判明数	乳がん
視触診のみ	4,337人 20.9%	222人 5.1%	170人 (76.6%)	0
MMG+視触診	14,510人 70.1%	1,605人 11.1%	716人 (44.6%)	40人
US+視触診	1,378人 6.7%	84人 6.1%	46人 (54.8%)	3人
MMG+US +視触診	323人 1.6%	45人 13.9%	30人 (66.7%)	3人
その他	165人 0.8%	12人 7.3%	6人 (50.0%)	0
合計	20,713人 100%	1,968人 9.5%	968人 (49.2%)	46人

MMG:マンモグラフィ、US:超音波

# 乳がん検診学術講演会を開催 本会

## 検診実績をもとに、マンモや 超音波検診の有効性で講演

次のように述べた。  
「わが国の乳がん罹患率は40歳後半にピークがある

演を行った。島田副院長は、働き盛り世代に罹患のピークがあるわが国の乳がん死亡率を低下させるためには、自治体による検診とともに職域検診の充実も必要だと指摘した。



北川照男本会理事長は、本会の乳がん検診に対する関係者の協力に謝意を表すとともに、乳がん死亡率を減少させるために今後高品質の検診を積極的に行っていくとあいさつした。

急増する乳がんの死亡率を減少させるため、国は昨年、40歳代以上にマンモグラフィ(マンモ)と視触診の併用検診を隔年実施とする検診の指針を示した。本会では、2002年度より、乳がんの1次検査にマンモを導入し、昨年度にはマンモ搭載車による検診を開始するなど、乳がんの早期発見に向けた取り組みを続けている。その一環として10月5日、「乳がん検診の現状と未来」をテーマに、本会が主催して乳がん検診学術講演会を開いた。学術講演会では、マンモや超音波による検診の有効性についての講演が行われ、地域や職域の乳がん検診担当者や専門医、本会の担当者ら約160人が参加し、活発な討議がなされた。

冒頭 北川照男本会理事長は、本会の乳がん検診に対する関係者の協力に謝意を表すとともに、乳がん死亡率を減少させるために今後高品質の検診を積極的に行っていくとあいさつした。

続いて行政の立場から、福内恵子東京都福祉保健局保健政策部健康推進課課長は、「東京都の乳がん死亡率は全国平均の1.2倍である。そのため都としても、乳がん対策を非常に重要な施策として考えており、検診体制の整備に取り組んでいる。今後受診率の向上、機器の整備、啓発活動などを強力に推進していく方針である」と述べた。

40歳代は超音波とマンモの隔年交互検診、50歳以上はマンモ検診とする独自の検診ガイドラインを作成するなど、県をあげた対策がなされている。橋本部長は、これまでの検診実績をふまへ、検診で最終的に乳がんを診断された560人の検査方法別の検診率は、視触診で61.6%、マンモは82.3%、超音波が86.6%という結果であり、ほぼ全員がマンモと超音波の組み合わせで検出されていると報告した。

そのうえで橋本部長は、超音波による乳がん検診のエビデンスはまだ確立していないとしながらも、「乳がん死亡率を減少させるためには、十分な効果が期待できる」と述べた。

副院長は本会の乳がん検診の成績について次のように報告した。「協会のマンモ検診は、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会の認定を受けた女性技師が撮影し、同認定医師が二重読影ならびに経年比較読影を行っている。また昨年からは、精度管理委員会を立ち上げて読影結果のフィードバックなども取り組んでいる。

2004年度の総受診者は2万713人で、精密検査結果を追跡できた968人のなかから46人に乳がんが発見されている(表)。検診項目別の



「写真」は、「マンモグラフィからの有効性」と題して講演した。



「協会のマンモ検診は、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会の認定を受けた女性技師が撮影し、同認定医師が二重読影ならびに経年比較読影を行っている。また昨年からは、精度管理委員会を立ち上げて読影結果のフィードバックなども取り組んでいる。

また、昨年11月から今年8月に実施した本会の「乳がん検診アンケート調査・中間報告」(対象乳がん検診受診者5366人、回収率98%)では、回答者の94%が「対応が良かった」、78%が「また必ず受診したい」と答えていることから、島田副院長は「協会の検診に対する受診者の満足度が高いことがわかる」と評価した。

### 個人情報取扱について

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。そのうえで今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話03-3269-1131)までご連絡ください。

### 健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は 予約制)  
電話 東京(03)3269-1141  
健康管理コンサルタントセンター  
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2  
(財)東京都予防医学協会

### コンサルテーションのご案内

- 12月 7日 岡 惺治(健康管理コンサルタント)
- 14日 三輪祐一(東京都予防医学協会総合健診部長)
- 21日 岡 惺治
- 28日~1月4日まで年末年始につき休み
- 1月11日 岡 惺治
- 18日 三輪祐一
- 25日 第205回ヘルスケア研修会につき休み



# 第50回 予防医学事業推進 全国大会が福岡市で開催



予防医学事業中央会(中央会福岡九州産業衛生協会(中央会福岡県支部)が主催する第50回予防医学事業推進全国大会が、10月21日、福岡市のアークロス福岡で開催された。

大会では、「活力ある高齢社会をめざして 活力の源泉は健康増進」をテーマに、篠崎英夫国立保健医療科学院院長による特別講演「高齢社会における健康づくり、健康

日本21のめざすもの」や、尾前昭雄国立循環器病センター名誉総長による特別講演「生活習慣病の予防について」が、10月21日、福岡市のアークロス福岡で開催された。

また、尾前名誉総長は、40年に及ぶ研究の成果をもとに、遺伝と環境要因のかかわり、生活習慣病に関する重要な因子、21世紀の課題、生活習慣病とゲノム疫学などについて詳細な解説を行った。

また、尾前名誉総長は、40年に及ぶ研究の成果をもとに、遺伝と環境要因のかかわり、生活習慣病に関する重要な因子、21世紀の課題、生活習慣病とゲノム疫学などについて詳細な解説を行った。

また、尾前名誉総長は、40年に及ぶ研究の成果をもとに、遺伝と環境要因のかかわり、生活習慣病に関する重要な因子、21世紀の課題、生活習慣病とゲノム疫学などについて詳細な解説を行った。

また、尾前名誉総長は、40年に及ぶ研究の成果をもとに、遺伝と環境要因のかかわり、生活習慣病に関する重要な因子、21世紀の課題、生活習慣病とゲノム疫学などについて詳細な解説を行った。

また、尾前名誉総長は、40年に及ぶ研究の成果をもとに、遺伝と環境要因のかかわり、生活習慣病に関する重要な因子、21世紀の課題、生活習慣病とゲノム疫学などについて詳細な解説を行った。

インフォームド・コンセントが定着し、患者と医師が協同して治療にあたる時代を迎え、科学的根拠に基づいた質の高い疾病の予防策や治療のあり方が求められている。

基調講演で垣添総長は、がんについて、「がんという病名は、遺伝子の異常によって発生し、進展する。しかもそれは長い時間をかけて、段階的におこってくる病気であり、その原因としては、たばこが30%くらい、食事が35%くらい、感染症が10%くらいで、約75%が生生活習慣に深く関係している」として、がんは、禁煙や検診により、予防可能な病気であることを強調した。

また、国立がんセンター中央病院で、がんで死亡した346人の解析結果から、「亡くなった人の70%は、発見時期、すでに、期の進行

がんであった。もう少し早く発見されていたら、多くの人を助けられたかもしれない。このことは、質の高い検診が非常に重要であるということ、強くメッセージとして告げている」と述べた。

さらに、これからの課題として、「早期発見も治療も難しい難治がんが25%くらい存在しているが、基礎研究の継続によって、徐々に早期発見する手法が見つかり始めている」と述べて、基礎研究の重要性と、そのための、がん登録をはじめとする正確な実態

ベル以上の診断治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図ることが重要な課題となっている」として、そのために、現在、国が進めている「地域がん診療拠点病院」構想の質を見直して、きちんとしたがん情報の発信や人材育成、そしてなによりも質の高いがん医療の提供を行っていることが必要だ」と述べた。

また、「放射線療法」を担当した廣川裕前順天堂大学医学部教授は、「放射線療法は、かつての、手術のできない進行したがんや再発したがんが対象という古い考えから、早期がんを対象にした、切らずに治して、機能障害を最小限にできる治療法へと進歩してきている」と述べた。

最後に「外科療法」を担当した武藤徹一郎癌研有明病院院長は、主ながんの切除率、手術死亡率、生存率の経年的な変遷を示しながら、外科での治療成績の向上について解説し、「質的にも、各種機能の温存手術の進歩に見られるように、患者さんの術後の生活の質を高める方向で、拡大手術から縮小手術へと移行してきている」と述べた。

第205回ヘルスケア研修会 1次予防への取り組み 集団・個人へのアプローチ 1月25日(水)午後2時~4時 東京・永田町・星陵会館

第205回ヘルスケア研修会が1月25日(水)午後2時から4時まで、東京・永田町の「星陵会館」で開かれる。「1次予防への取り組み 集団・個人へのアプローチ」と題してシンポジウムを行う。シンポジストは、富士通あきる野テクノロジセンター健康推進室の三橋祐子保健師味の素人事部川崎健康推進センターの辻と子保健師、電通健康保険組合の宮田理恵保健師、司会は、飯島美世子

「医学・医療の今 がんに挑む」

「医学・医療の今 がんに挑む」

「医学・医療の今 がんに挑む」

「医学・医療の今 がんに挑む」

「医学・医療の今 がんに挑む」

「医学・医療の今 がんに挑む」

「医学・医療の今 がんに挑む」

「医学・医療の今 がんに挑む」

「医学・医療の今 がんに挑む」

「医学・医療の今 がんに挑む」

## 「医学・医療の今 がんに挑む」

把握の必要性を強調した。また、わが国で、地域によって、あるいは病院によってがん医療の水準に格差があることに言及して、「日本中、どこでがんになっても一定し

くことが必要だ」と述べた。続いて行われたパネルディスカッションでは、まず森山紀之国立がんセンターがん予防・検診研究センター長が「診断の進歩」を担当し、X線CT、MRI、PETなどコンピュータを駆使した診断装置の開発の現状と、それらの機器を使用した、がん予防・検診研究センターでの検診成績について報告した。

次に「化学療法」を担当した江口研一東海大学医学部教授は、「抗がん剤治療に対する患者さんの期待度は大きいが、副作用のリスクも大きい。医師は患者さんとよく話し合いつつ治療にあたるのが重要である」と述べて、インフォームド・コンセントの重要性を強調した。

また、「放射線療法」を担当した廣川裕前順天堂大学医学部教授は、「放射線療法は、かつての、手術のできない進行したがんや再発したがんが対象という古い考えから、早期がんを対象にした、切らずに治して、機能障害を最小限にできる治療法へと進歩してきている」と述べた。

最後に「外科療法」を担当した武藤徹一郎癌研有明病院院長は、主ながんの切除率、手術死亡率、生存率の経年的な変遷を示しながら、外科での治療成績の向上について解説し、「質的にも、各種機能の温存手術の進歩に見られるように、患者さんの術後の生活の質を高める方向で、拡大手術から縮小手術へと移行してきている」と述べた。

第205回ヘルスケア研修会 1次予防への取り組み 集団・個人へのアプローチ 1月25日(水)午後2時~4時 東京・永田町・星陵会館

## 『子どもの生活習慣病と健康づくり』を頒布

冊子は、各分野の専門家からなる、中央会「小児期からの生活習慣病予防学術委員会」(委員長 村田光範)が編集・作成したもので、生活習慣病にかかわる要因や、生活習慣病の予防対策などがわかりやすく紹介されている。

頒布にあたって中央会の山内邦昭事務局長は、「子どもに正しい生活習慣を身につけてもらうための一助となれば」と話している。

中国江蘇省家庭・老人保健視察団が本会を視察 家族計画国際協力財団(ジヨイセフ)では、日本の人口問題、家族計画、リプロダクティブヘルス、地域保健活動の視察見学を目的とした中国江蘇省家庭・老人保健視察団が10月18日、本会を訪れ、本会の施設と事業を視察した。

中国江蘇省家庭・老人保健視察団が本会を視察 家族計画国際協力財団(ジヨイセフ)では、日本の人口問題、家族計画、リプロダクティブヘルス、地域保健活動の視察見学を目的とした中国江蘇省家庭・老人保健視察団が10月18日、本会を訪れ、本会の施設と事業を視察した。

## 人・往来

中国江蘇省家庭・老人保健視察団が本会を視察 家族計画国際協力財団(ジヨイセフ)では、日本の人口問題、家族計画、リプロダクティブヘルス、地域保健活動の視察見学を目的とした中国江蘇省家庭・老人保健視察団が10月18日、本会を訪れ、本会の施設と事業を視察した。

中国江蘇省家庭・老人保健視察団が本会を視察 家族計画国際協力財団(ジヨイセフ)では、日本の人口問題、家族計画、リプロダクティブヘルス、地域保健活動の視察見学を目的とした中国江蘇省家庭・老人保健視察団が10月18日、本会を訪れ、本会の施設と事業を視察した。

中国江蘇省家庭・老人保健視察団が本会を視察 家族計画国際協力財団(ジヨイセフ)では、日本の人口問題、家族計画、リプロダクティブヘルス、地域保健活動の視察見学を目的とした中国江蘇省家庭・老人保健視察団が10月18日、本会を訪れ、本会の施設と事業を視察した。

中国江蘇省家庭・老人保健視察団が本会を視察 家族計画国際協力財団(ジヨイセフ)では、日本の人口問題、家族計画、リプロダクティブヘルス、地域保健活動の視察見学を目的とした中国江蘇省家庭・老人保健視察団が10月18日、本会を訪れ、本会の施設と事業を視察した。

**FUKUDA DENSHI**

### 学童検診業務の必携システム!

**ECP-4641**  
医療用具承認番号:20800BZZ00230000

- 学童省略4誘導、標準12誘導、心音図を自動解析
- 心電・心音図検査を60人以上/時間のスピードで処理
- 不整脈自動延長機能を搭載(学校保健法施行規則に対応)
- 内蔵フロッピー装置、ICカード装置で収録データの再生可能
- 成人病検診にも活用可能

※解析プログラムは学校心臓検診2次検診対象者抽出ガイドラインに対応  
※検診業務に対応する専用パネル採用

フクダ電子ホームページ <http://www.fukuda.co.jp> お客様窓口 (03)5802-6600

●医用電子機器の総合メーカー  
**フクダ電子株式会社**  
本社 東京都文京区本郷 3-39-4 TEL (03)3815-2121(代) F113-8483